

甲斐市歴史文化資産年報7

令和5年度

2025

甲斐市教育委員会

例 言

1. 本書は山梨県甲斐市の令和5年度における文化財保護に関する概要を記した年報である。
2. 本年報における文化財保護に関する行政組織は次のとおりである。

令和5（2023）年度

甲斐市教育委員会	教 育 長	高 島 悟
	教育部長	名 取 藤 吾
生涯学習文化課	課 長	高 須 秀 樹
文化財係	係 長	丸 茂 貴 幸
	主 査	長 谷 川 哲 也
	主 任	塩 谷 風 季

令和5年度 文化財調査作業員（会計年度任用職員）登録者（順不同）

高 添 美 智 子・望 月 典 子・田 中 ひ と み・村 松 圭 子・青 柳 正 史・古 屋 秀 雄・羽 中 田 勲・立 花 重 光・日 向 充 雄・
齊 藤 功 記・笠 井 治・小 林 求・森 川 恵 美・瀧 口 晴 彦・飯 沼 源 治・箭 本 千 尋・大 塚 律 子・祐 津 利 人・青 木 保 志・
雨 宮 信 次・中 安 典 子・保 坂 秋 蘭・佐 野 進 一・宮 坂 雄 次 郎・丸 茂 梨 果

3. 本書の執筆・編集は長谷川が行った。
4. 本書に掲載した史・資料、諸記録は、所有者に返却したもの以外はすべて甲斐市教育委員会で保管している。
5. 令和5年度中の文化財保護業務にあたり関係各位からご理解、ご協力を頂いた。ここに感謝申し上げる次第である。

目 次

第1章 文化財の保存と活用

1. 文化財保護審議会	2
2. 甲斐市文化財保存活用地域計画協議会	3
3. 甲斐市歴史文化資産拠点施設 整備等基本構想の作成と整備検討委員会	3
4. 各種事業（措置）の実施状況 (1) 基本方針1：調べて残す（調査研究・保存・維持管理・伝承）	4
(2) 基本方針2：伝えて共有し、育てる（情報発信・活用・人材育成）	10
(3) 基本方針3：未来につなげる (体制整備、防災・防犯への備え、拠点施設の整備)	13

第2章 埋蔵文化財

1. 令和5年度埋蔵文化財保護行政概要	14
2. 令和5年度 試掘調査概要	16
3. 令和5年度 本調査概要	18

第1章 文化財の保存と活用

令和元(2019)年末頃から新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)が全世界に感染拡大し、令和2(2020)年2月11日世界保健機関(WHO)によって新型コロナウイルス感染症は「COVID-19 (coronavirus disease 2019)」と命名された。その間、政府ガイドライン等をふまえた上で事業の実施・中止等を判断していたが、令和5(2023)年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが「5類感染症」となった。このことにより、本年報で報告する令和5年度は、いわゆる「コロナ禍」明けの初年度となったことを付記しておく。

<引用・参考文献>

厚生労働省「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に係る新型インフルエンザ等感染症から5類感染症への移行について」(令和5年4月27日厚生労働大臣公表文書/令和7年1月22日ウェブサイト閲覧)

同上「新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応について」(令和7年1月22日ウェブサイト閲覧)

また、令和4年12月16日に文化庁長官から認定を受けた「甲斐市文化財保存活用地域計画」(以下、地域計画)は、令和5年度から令和12年度までの8年間にわたる本市文化財保護行政のマスタープラン及びアクションプランである。令和5年度はその最初の年度にあたり、本年度から地域計画の基本理念及び基本方針に基づき、各種措置(事業)を実施する。措置一覧については巻末を参照のこと。

甲斐市文化財保存活用地域計画

◆基本理念：ふるさとの歴史文化を未来につなぐ 心づくりと人づくり

◆基本方針(方針は相互に連動しているもので、優先順位を示すものではない)

方針1：調べて残す(調査研究・保存・維持管理・伝承)

- 1-1 歴史文化を未来に残すための計画的・継続的な調査研究
- 1-2 保存・維持管理・伝承の仕組みや支援方法を整える

方針2：伝えて共有し、育てる(情報発信・活用・人材育成)

- 2-1 様々な手法で甲斐市の歴史文化を情報発信する
- 2-2 関連部局と連携した歴史文化資産の活用
- 2-3 歴史文化を次世代につなぐ人づくりの方法を整える

方針3：未来につなげる(体制整備、防災防犯への備え、拠点施設の整備)

- 3-1 歴史文化資産保護の体制整備
- 3-2 防災・防犯への備え
- 3-3 歴史文化資産拠点施設の整備の検討

1. 文化財保護審議会

令和4年度から令和5年度の甲斐市文化財保護審議会委員は下表のとおりである。任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日までである。

文化財保護審議会委員名簿

役 職	氏 名	専 門	担 当
会 長	坂 本 美 夫	考古学	有形文化財(考古資料)・記念物(史跡)
職務代理	新 津 健	考古学	有形文化財(歴史資料)・記念物(名勝地)
委 員	畑 大 介	史学・保存科学	有形文化財(歴史資料)・文化財保存修復
委 員	菰 原 桂	植物学	記念物(植物)
委 員	丸 尾 依 子	民俗学	民俗文化財

令和5(2023)年度 文化財保護審議会 主要議題

◆第1回(令和5年5月29日)

- (1) 令和5年度 文化財保護事業の概要
- (2) 甲斐市文化財保存活用地域計画協議会について
- (3) 文化財拠点施設整備について
- (4) その他
 - ① 竜王小学校所有 宮小路康文の「龍王学校」の額について
 - ② 天澤寺防犯カメラ設置希望と本堂市指定希望について
 - ③ 宇津谷 諏訪神社本殿(未指定)の修理希望 補助対象となるかについて
- (5) 現地視察
 - ① 三社神社本殿の帳(とばり)
 - ② 宇津谷 諏訪神社本殿(未指定)
 - ③ 文化財拠点施設建設候補地



三社神社本殿の帳(全景)



三社神社本殿の帳

◆第2回(令和5年11月22日)

- (1) 指定等文化財 事業経過及び報告
 - ① 妙善寺のカヤ(市指定) 剪定
 - ② 下福沢の道祖神祭(市指定) 獅子頭修理

- ③三社神社本殿(市指定) シロアリ防除
 - ④同上 帳(とばり)新調
 - ⑤天澤寺文書(一部市指定) 目録作成
 - ⑥竜王3区 木造妙見菩薩坐像(未指定)の調査
- (2) 甲斐市歴史文化資産拠点施設整備検討委員会について
- (3) その他
- ・宇津谷 諏訪神社本殿(未指定)の修理希望…市補助対象外

◆第3回(令和6年2月7日)

- ・市議会総務教育常任委員会との意見交換会

坂本文化財保護審議会長から本市文化財の説明ののち、質疑応答となった。後継者の育成、未指定文化財の取り上げ方、専門職員の必要性など、様々な意見や質問が議員から出された。

2. 甲斐市文化財保存活用地域計画協議会

令和3年度に委嘱を行った協議会委員の任期が令和4年度末で満了となったため、令和5年度及び6年度協議会委員の委嘱式を令和5年5月29日に実施した。委員16名中2名が新任となった。協議会では、地域計画に基づいた令和5年度の文化財保護事業の概要を説明し、加えて「甲斐市の歴史や文化を伝える場所、多くの市民の方に役立つ場所として活用してほしい」という趣旨でご寄付いただいた土地についても報告を行った。



地域計画協議会 委員委嘱式

3. 甲斐市歴史文化資産拠点施設整備等基本構想の作成と整備検討委員会

地域計画の基本理念等を踏まえ、調査研究・保存管理・教育普及の全てが一元的に行える拠点施設の整備を検討する基本構想を作成するために、公募型プロポーザルを実施した。その結果、株式会社綜企画設計 西東京支店が委託事業者と決定した。

基本構想作成と同時進行で、甲斐市歴史文化資産拠点施設整備検討委員会設置条例を設け、拠点施設の整備に関し必要な事項を調査審議するために「甲斐市歴史文化資産拠点施設整備検討委員会」(以下、整備検討委員会)を設置した。委員は専門的な識見を有する方5名、関係団体の役職員2名、地域住民の代表者2名、教育委員会が必要と認める方の計10名で構成する。令和5年11月22日に、委員委嘱式と第1回整備検討委員会を開催し、基本構想の趣旨を説明した。

基本構想は委員からの意見をもとに本文を作成・修正し、委託業者と何度も打ち合わせを行い、第2回整備検討委員会で素案を提示した。その後、いくつかの修正を経て令和6年3月に「甲斐市歴史文化資産拠点施設整備等基本構想」が完成した。構想の内容については詳述しないが、地域計画の基本理念及び基本方針を核としている。



第1回 整備検討委員会



第2回 整備検討委員会

4. 各種事業(措置)の実施状況

地域計画の方針及び措置番号に応じて列挙する。なお、各措置には計画期間があるため、必ずしも全ての措置が列挙されるわけではない。

(1) 基本方針1：調べて残す(調査研究・保存・維持管理・伝承)

①措置番号1「歴史文化資産把握調査の継続」

・市所有史料デジタル変換(デジタル補正)作業委託

市が所有する VHS テープ「竜王新町の庚申講」(平成3年3月/旧竜王町地域推進委員作成)のデジタル変換を実施した。

・漆戸飯沼家文書の分類作業

令和4年度に寄附いただいた文書整理の継続。5年度は年貢や金銭出納など、文書を種別ごとに年代順に分類したのち、パソコンでデータベースを作成した。文書は中性紙封筒及びもんじょ箱で保管している。

・天澤寺文書の目録作成作業

令和5年5月22日にお寺から文書一式をお預かりし、指定文化財の所在確認とあわせて何がどれくらいあるかを把握し、分類、目録を作成した。その際、可能な限り文書を翻刻した。その後パソコンでデータベースを作成し、文書を1点ずつ写真撮影した。全データを複写し、令和5年12月22日にお寺に文書を返却した。

文書は216点で、内訳は16世紀4点、17世紀9点、18世紀22点、19世紀115点、20世紀29点、その他37点である。本堂が元禄6年(1693)に再建されたことを示唆する史料(分類番号: 8-15「由緒並財産調査書(明治28年・1895)」/分類番号: 8-43「諸堂覚帳(年未詳)」)と、境内建物が火災によって焼失した記述(分類番号: 御朱印箱-16「奉願口上之覚(宝永4年正月・1707)」)を発見した。

ただし、本堂創建年を証明するためには、学術的に様々な面から検討する必要があるため、本史料のみで創建年を確定するのは早計である(本史料の史料批判も実施していない)。しかし、『敷島町の文化財』(平成3年・平成13年)のパンフレットなどにある「火災のため古い記録は失われた」という口頭伝承が、史実である可能性が高まった。



御朱印箱内の文書



調査風景

・竜王3区公会堂の妙見菩薩の調査

自治会から「公会堂にある妙見菩薩を一度確認してほしい。指定文化財になりうるか」という調査依頼があった。令和5年8月2日、元 市文化財保護審議会委員の鈴木麻里子氏に調査を依頼し、公会堂で自治会立会のもと調査を行った。厨子と仏像の作風が大きく異なることから、厨子の作成は江時代半ば頃に制作された可能性もある一方で、仏像は明治初年に制作されたことが判明した。指定文化財になりうるかどうかはその場で回答せず、市文化財保護審議会で改めて議論した結果、指定相当ではないという判断となり、自治会にもその旨を口頭で回答した。



調査風景



妙見菩薩と厨子

・過去の古文書調査目録カードのデータベース化

過去の調査で目録を作成した古文書の目録カードを、パソコンでデータベース化を行った。将来的にはデータを統合し、市所有文書を横断的に検索できるようにすることが目標。

・新居区公会堂内の仏像ほか簡易聞き取り調査

新居区いきいきサロンの打ち合わせで、公会堂にある仏像について質問があった。由来は『竜王町史』などに記載されており、明治7年(1874)に廃寺となった向玉院(曹洞宗)の本尊・薬師如来坐像であった。仏像の年代は室町時代後期頃とされている。また、向玉院は「向玉院跡」として、埋蔵文化財包蔵地として登録されている。以下に、祭礼の様子を簡潔に記す。

令和5年8月27日(日)18時前に公会堂西隣の道祖神場に区民が集まり、大慈院住職による般若心経の読経が行われた。秋葉山の常夜灯前には電飾ロウソクと区民配布用の秋葉山のお札がある。読経中に区民が焼香を行ったのち、公会堂に焼香台とお札を持ち帰る。その後、公会堂西壁

内に安置されている薬師如来に対して、読経と焼香を行う。真言と思われる文言を唱えながら、配布用の秋葉山のお札に焼香の煙をまぶして終了。所要時間は30分程度。その後、区民と住職の会食が始まった。

住民に話をうかがったところ、「夫は今年75歳だが、子どもの頃からこの祭礼を行っている」と聞いている。「道祖神場は現状の道路から一段高くなっているが、本来はこの高さが地面の高さだった(新居区公会堂の前は埋蔵文化財包蔵地「霞堤」となっている)」「祭礼と地域の祭りを同時に行った。本当は地域の祭りは昼間行っていたが、新しい住民も増えたので時間帯を気にしながら実施している」などの声を聞いた。

秋葉山と薬師如来の祭礼を同時に行う理由は不明。廃寺となってからかなりの年数が経つにも関わらず、区民が薬師如来に対する祭礼を行っていることが大きな特徴と思われる。



遠景(提灯には「秋葉祭 新居区」と記載)



右が秋葉山「秋葉常夜燈明 講中」と陸刻



公会堂内での祭礼



旧向玉院の本尊 薬師如来坐像

②措置番号2「市内埋蔵文化財調査」(第2章で詳述)

- ・開発等に伴う埋蔵文化財試掘調査…計10件(包蔵地内7件、包蔵地外3件/本調査対応なし)
- ・峠の腰窯跡発掘調査の整理分析調査…発掘調査報告書刊行済

③措置番号5「指定等文化財の状況確認調査」の実施

- ・天澤寺文書(市指定)の状況確認及び目録作成

措置1の天澤寺文書の目録作成作業を実施する傍ら、指定文化財の所在確認を行った。その結果、4点の古文書のうち、1点(徳川家康朱印状)が指定当時(昭和45年10月1日)から存在していな

い可能性が高いことが判明した。

当該文書「徳川家康朱印状(分類番号：御朱印箱-35)」の封紙には、「大権現様御朱印」と記載されているが、敷島町誌編集委員会事務局の調査カード(本史料のものではない)と甲州鎮撫府参謀による朱印11通の預り状が包まれていた。目録作成の過程でお預かりした全点を確認したものの、朱印状原本は1点も確認していない。

また、分類番号：8-14「古寺調書(明治28年・1895)」に「(前略)朱印証十一通ハ甲州鎮撫参謀ヲ以テ預リトナル」、「明治元年九月六日、甲州鎮撫府参謀ヲ以テ朱印十一通、預り証一通」と記されており、明治28年の段階で当時の住職が「甲州鎮撫府参謀の預り証」のことを記していることから、すでに朱印状がお寺に存在していなかったことがわかる。

以上のことから、指定当時から原本が存在していないと可能性が高いと判断した。今後は、市に残された断片的な当時の資料から、何をもって指定物件としたのかを調査する。



文書番号：御朱印箱-35の封紙



同左 預り状

④措置番号7「指定等文化財保存事業」

- ・ 光照寺薬師堂(国重文) 自火報点検／・ 慈照寺法堂ほか(県指定) 自火報点検
- ・ 光照寺薬師堂消火器交換
- ・ 下福沢の道祖神祭保存維持管理事業
※大久保の神楽(市指定)・金剛地金山神社祭典(市指定)は種々の理由により実施せず
- ・ 6月補正予算対応) 妙善寺のカヤ(市指定) 剪定事業補助金
過年度からの課題であったカヤの剪定を実施した。



剪定中



剪定後

・ 6月補正予算対応) 下福沢の道祖神祭(市指定)獅子頭修理事業補助金

下福沢青年会から、道祖神祭で使用する獅子頭の修理希望があった。実現すると、獅子頭の塗が剥離した部分が口まわりや耳にあり、また歯・耳の一部に欠損部分が認められたため、補正予算対応で修理を実施した。以下に市教委に提出された「修理報告書」から修理手順を部分転載する。まず油単(獅子頭の胴体部にあたる布)を外す。パーツを全て外し、剥離部分と欠損部分にパテを詰め、段差を補修してカシュー塗料で一度目の塗りを施す。その後二度目の塗りを施す。外した目の金具部分には金箔を貼る。耳の部分の布団は新調する。よく乾かしたのち、パーツを元通り組み立て、顎の微調整を行ったのち、最後に油単をとりつけて完了となった。修理期間は8月7日から10月12日で、修理は根津装束店(甲府市湯田)が実施した。



修理前



修理後



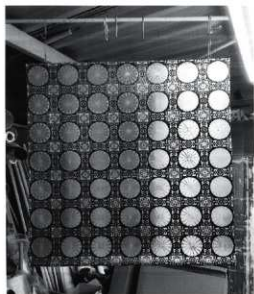
2024年1月14日 祭礼の様子

・ 9月補正予算対応) 三社神社本殿(市指定) 本殿の帳の新調/三社神社本殿(市指定) シロアリ防除

三社神社氏子から本殿の帳(とばり)の修理希望があったため、5月29日の第1回文化財保護審議会で現地を視察し、補助対象として認められた。その後、専門業者と三社神社の話し合いにより、修理ではなく新調することになり、3点の帳をすべて新調した。また、同時に本殿のシロアリ被害が認められたため、防除を実施した。



新調前



新調後

・ 12月補正予算対応) 光照寺薬師堂(国重文) 近接樹木伐採事業

光照寺檀家からの要望により、薬師堂に近接し、強風などで倒れた場合の被害を最小限にするための近接樹木伐採を実施した。本事業は、山梨県文化財保存事業費補助金の交付対象であったため、県補助金も活用して実施した。なお、薬師堂に最も近接している樹木は、令和2年度に芯止めを行っている。



伐採前



伐採後

(2) 基本方針2：伝えて共有し、育てる(情報発信・活用・人材育成)

①措置番号 12「歴史文化資産の情報発信と市ウェブサイト掲載内容の充実」

- ・経年劣化した中鉢塚古墳説明板の修繕を実施



②措置番号 14「歴史文化講座の開講」

措置番号 20「歴史文化に興味関心のある若年世代の発掘・育成」も根拠として、5年度は親子向け講座を過年度よりも増やした。

令和5年度 歴史文化講座(全12回)

回数	開催日	講座名	講師	対象	受講数(子ども)
1	5月12日	日本遺産 新緑の御嶽昇仙峡を歩こう！	菰原 桂氏 (市文審委員)	一般	19
2	6月10日	親子むかしウォーク(島上条編)	村松 圭子氏 (県考古学協会会員)	親子	6(3)
3	8月1日	親子むかしウォーク2(上福沢編)	同上	親子	9(5)
4	8月8日	親子で解説！むかしの字	同上	親子	20(11)
5	8月22日	親子でつくる“豪華な”まが玉首かざり	同上	親子	12(6)
6	10月14日	親子で昇仙峡に親しむ自然観察ウォーク	菰原 桂氏 (市文審委員)	親子	10(5)
7	11月11日	親子謎解き まちたんけん(志田・岩森編)	同上 市学芸員	親子	10(6)
8	12月23日	琥珀でまが玉をつくろう	村松 圭子氏 (県考古学協会会員)	親子	12(5)
9	1月24日	実践くずし字解読演習はじめての歩①	市学芸員	一般	6
10	1月31日	実践くずし字解読演習はじめての歩②	同上	一般	6
11	2月7日	実践くずし字解読演習はじめての歩③	同上	一般	6
12	3月14日	親子謎解き まちたんけん(玉川編)	村松 圭子氏 市学芸員	親子	9(5)
参加者総数 125人(内、子ども46人)					



親子むかしウォーク2 (上福沢編)



親子で読解! むかしの字 問題例

③措置番号 15 「歴史文化資産学習の関連部局との連携」

④措置番号 16 「歴史文化資産を活かしたふるさと学習」

⑤措置番号 17 「ジュニアリーダー、シニアリーダーとの連携」

それぞれの措置を根拠に、講師派遣依頼に基づいた市内文化財の解説等を行った。過年度まで行っていた、学校や自治会向けの解説のほか、新たにジュニアリーダー研修会との連携に着手した。

令和5年度 講師派遣依頼

開催日	依頼者	対象	内容	参加人数
4月14日	なみはや歴史講座(大阪府)	一般	中林塚古墳の説明、石室案内	2
4月29日	竜王北部公民館長	親子	親子古墳探検	23
5月3日	双葉東小学校長	小3	往生塚古墳の説明	105
5月9日	名取いきいきサロン	一般	県名の由来、模範社の盛衰	30
5月12日	市防災危機管理課長	一般	海老名市職員への信玄堤等解説	3
5月17日	敷島新町いきいきサロン	一般	発掘調査の方法と松ノ尾遺跡第15次調査	15
6月1日	竜王北小学校長	小2	おみゆきさんについて	93
6月10日	岩森いきいきサロン	一般	岩森公民館周辺の歴史文化①	20
6月21日	市聴覚障害者協会	一般	敷島の歴史文化	15
7月13日	敷島公民館長	一般	公民館講座に伴う羅漢寺解説	12
7月26日	市図書館長(双葉図書館主催)	親子・子	考古学講座「発掘ってなあに?」	11
7月26日	大下条いきいきサロン	一般	発掘調査とは	20
7月27日	市図書館長(双葉図書館主催)	親子・子	考古学講座「拓本体験、収蔵庫見学」	12
8月28日	大栄いきいきサロン	一般	大栄公会堂周辺の歴史文化①	20
8月31日	市人事課長	大学生	インターンシップ	5
9月12日	新居区いきいきサロン	一般	新居区公会堂周辺の歴史文化①	15
10月4日	竜王北小学校長	小4	信玄堤、石積出、六科将棋頭	66
10月18日	身延清稔小学校長	小4	信玄堤	8
10月19日	双葉西小学校長	小2	双葉歴史民俗資料館	12
10月22日	敷島地区ジュニアリーダー研修会	小学生ほか	謎解き まちたんけん(亀沢編)	30

開催日	依頼者	対象	内容	参加人数
10月23日	万才1区いきいきサロン	一般	1区公会堂周辺の歴史文化①	25
10月24日	宮地いきいきサロン	一般	宮地公会堂周辺の歴史文化①	15
10月25日	身延町立下山小学校長	小4	信玄堤	14
10月25日	敷島南小学校長	小4	信玄堤、石積出、六科将棋頭	61
10月26日	県連合婦人会	一般	亀石など民話の現地解説	30
11月3日	ジュニアリーダー研修会	小・中学生	歴史文化体験会(火おこし体験、 鍬兜着用体験)	13
11月8日	竜王東小学校長	小4	信玄堤、石積出、六科将棋頭	40
11月9日	竜王小学校長	小4	信玄堤、三社神社	53
11月9日	陸沢地域ふれあい館長	一般	久遠寺、思観園、本遠寺	20
11月16日	上町北いきいきサロン	一般	上町北公会堂周辺の歴史文化①	25
11月27日	敷島南小学校長	小4	県内と市内の文化的行事	61
1月16日	竜王小学校長	小3	昔の道具とくらし	61
1月17日	山梨学院小学校長	小4	信玄堤、三社神社	73
1月17日	月林区いきいきサロン	一般	月林公会堂周辺の歴史文化①	10
1月23日	竜王南小学校長	小3	昔の道具とくらし	46
1月24日	敷島南小学校長	小3	同上	68
2月2日	玉幡小学校長	小3	同上	64
2月2日	ジュニアリーダー研修会	小・中学生	日本遺産ツアー(仙娥滝、水 晶博物館、羅漢寺など)	9
2月28日	大下条いきいきサロン (2回目)	一般	甲斐市の歴史文化(荒川扇状地)	22
3月10日	ジュニアリーダー研修会	小・中学生	赤坂稲荷神社初午祭り見学、 中鉢塚古墳見学	10

講師依頼件数 合計 40 件 参加人数 合計 1,235 人



敷島地区ジュニアリーダー研修会
謎解き まちたんけん(亀沢編)



野郎、貴方ちの山奥でんと、口口くんと、きしくんと、ぼく
とぼくをづかに無難にへいきました。ぼくはまことに有難いからとさ
んにエビつかにききたるがたりの事。ふんて無難にへいきまして、
むむにふんが刺にへいにがめあつたのでぼくはきびつたの事。

きしくんが「うおー」とさびけ、へんじをすはさずやとてはし
ずさあした。ぼくはとてききんでへんはへんした。たふん、へんは
びびりていてはとておもしろくす。きつとぼくはつれせりんとす。



↑ ↑ ぜ
ぎ ↓ ↓ ↓
か ↓ ↓

二、数据

200

同左 問願例



ジュニアリーダー研修会
火起こし体験



ジュニアリーダー研修会
日本遺産ツアー（羅漢寺）



ジュニアリーダー研修会
日本遺産ツアー（旧金桜神社石鳥居）



ジュニアリーダー研修会
赤坂稲荷神社初午祭り見学

(3) 基本方針3：未来につなげる(体制整備、防災・防犯への備え、拠点施設の整備)

①措置番号 27「市民参加による防災訓練の実施」

第70回文化財防火デーに伴い、荳崎消防署双葉分署による査察が、光照寺薬師堂(1/21)、龍蔵院(1/17)、妙善寺(1/25)で行われた。甲府地区消防本部西消防署による査察は文化財防火デー当日の1月26日に行われた。査察対象は慈照寺、峰観音堂、天澤寺、常説寺、金剛寺(袴腰天神本殿)、山縣神社、三社神社、称念寺。

②措置番号 29「歴史文化資産拠点施設の整備」

令和4年8月、県指定天然記念物「竜地の揚子梅」が所在する土地の所有者から、「甲斐市の歴史や文化を伝える場所、多くの市民の方に役立つ場所として活用してほしい」との意向で広大な土地をご寄付いただいた。そういった背景から、令和4年度には埼玉県内の文化財施設(朝霞市博物館、埼玉県歴史と民俗の博物館、蓮田市文化財展示室)、県内の文化財施設(北杜市郷土資料館、同考古資料館、同埋蔵文化財センター、浅川伯教・巧兄弟資料館)を視察した。令和5年度は富士吉田市ふじさんミュージアム、神奈川県茅ヶ崎市博物館の視察を行い、周辺自治体での先進的な事例を収集しつつ、先述したとおり委員会を立ち上げ、拠点施設の基本構想の作成までを行った。

第2章 埋蔵文化財

1. 令和5年度 埋蔵文化財保護行政概要

本調査は1件で、令和4年度に発掘調査を行った時の腰窯跡第1次調査の整理分析調査を実施し、報告書を刊行した。試掘調査は10件実施したが、本調査に該当するものはなかった。以下に試掘調査一覧、開発の届出件数、包蔵地問合せ件数を表にまとめた。

令和5年度 試掘調査一覧

No.	遺跡名	時代・時期	調査地点	対象面積 (㎡)	発掘面積 (㎡)	調査理由	調査期間	主な遺構	主な遺物	試掘指示通知番号	届出受付No
1	日ノ舘遺跡	古墳	中下条字日ノ舘722-1の一部	340	4	個人住宅 建設工事	R5.5.1	なし	土師器片 など数点	令和5年4月17日付・文化第269号	受付№1
2	三味堂遺跡	縄文・弥生・ 古墳・平安・ 中世	中下条1111-3	363	24	個人住宅 建設工事	R5.6.6	なし	土師器片 数点	令和5年5月29日付・文化第926号	受付№13
3	岡日塚北遺跡	古墳	竜王200-59外1筆	781	40	増設ポンプ場 造成・配水管 布設工事	R5.6.23	なし	なし	令和5年6月2日付・文化第1044号	受付№19
4	八ツ倉遺跡	縄文	宇津谷字八倉423外2筆	1591	80	児童館土留土 バリア建設	R5.6.26 ~ 6.27	竊穴 (時期不明)	なし	令和5年5月15日付・文化第745号	受付№8
5	包蔵地外 (甲府市秋葉町)	-	吉沢643-2外18筆	874	15.6	(上)甲府市秋 葉町秋葉町第1 号工事	R5.7.23	なし	なし	(試掘依頼)	受付№23 依頼1
6	包蔵地外 (下今井地内)	-	下今井字清水堀1344外11筆	5,717	20	宅地造成 工事	R5.8.24	なし	なし	(試掘依頼)	受付№49 依頼2
7	塚田西遺跡	縄文・古墳・ 平安	島上条字塚田1699-1	1,501	76	宅地造成 工事	R5.11.28 ~ 12.7	土坑2基 (縄文・時期 不明)	縄文土器 土師器 須恵器など	令和5年10月27日付・文化第2750号	受付№67
8	鹿屋	中世・近世	宮竹新田字東膳地510-1の一部 外2筆	1830.47	36.5	宅地造成 工事	R6.2.5	なし	なし	令和5年12月28日付・文化第3498号	受付№87
9	日向遺跡 厚西遺跡	縄文	大笠737-1外27筆	8355	460	宅地造成 工事	R6.2.6 ~ 3.5	時期不明の 竊穴状遺構	土器片 (近世・近 代) 数点	令和5年12月14日付・文化第3229号	受付№77
10	包蔵地外 (鹿屋地内)	-	鹿地6460-1外6筆	6008.41	42	拠点施設 整備	R6.3.14	なし	なし	(試掘依頼)	受付№101 依頼3

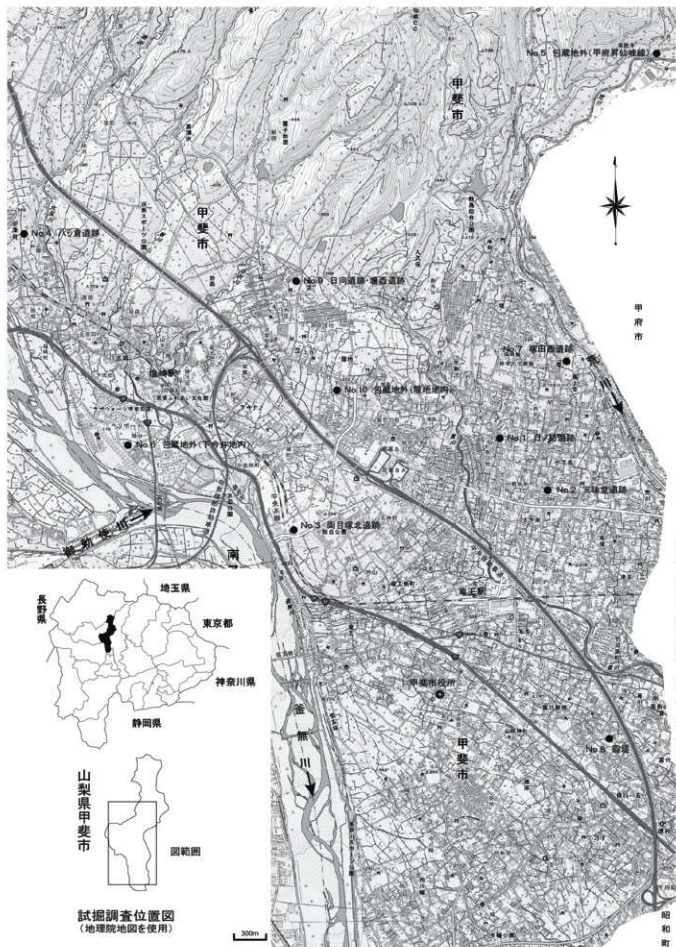
令和5年度 開発の届出(通知)件数

	93 条 (民間開発)	94 条 (公共工事)	試掘依頼 受付	計
試掘調査指示	6	1	3	10
工事立会指示	54	6	—	60
慎重工事指示	22	10	—	32
計	82	17	3	102

※年度内に文化財保護法に基づく届出・通知及び試掘依頼書を受理し、指示等を行った件数

令和5年度 包蔵地問合せ件数

	包蔵地内	包蔵地外	計
件数	210	900	1,100



2. 令和5年度 試掘調査概要

No.1 ひのつめ 日ノ詰遺跡

所在地 中下条字日ノ詰722-1の一部

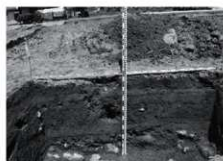
調査原因 個人住宅建設

調査期間 令和5年5月1日

調査面積 4㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 現地表面から最大86cmまで掘削を行ったが、土師器片など数点出土のみで、遺構の検出はなし。



土層地横状況

No.2 さんまいどう 三昧堂遺跡

所在地 中下条1111-3

調査原因 個人住宅建設

調査期間 令和5年6月6日

調査面積 24㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 住宅基礎の掘削深度である地表下40cmまで掘削を行ったが、土師器片数点出土のみで遺構の検出はなし。



土層地横状況

No.3 りょうめづかきた 両目塚北遺跡跡

所在地 竜王200-5外1筆

調査原因 増圧ポンプ場造成・配水管敷設工事(申請者:甲斐市長)

調査期間 令和5年6月23日

調査面積 40㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 現地表面から最大約147cmまでを掘削したが、遺構・遺物ともに確認されなかった。



掘削状況

No.4 やつくら ハツ倉遺跡

所在地 宇津谷字八倉4231外2筆

調査原因 営農型太陽光パネル建設(申請者:㈱環境ネットワーク)

調査期間 令和5年6月26日～6月27日

調査面積 80㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 現地表面から最大約126cmまでを掘削した。時期不明の暗渠を検出したものの、遺物は出土しなかった。



調査風景

No.5 包蔵地外(甲府昇仙峡線)

所在地 吉沢643-2外18筆

調査原因 橋樑架け替え工事(依頼者:山梨県中北建設事務所長)

調査期間 令和5年7月21日

調査面積 15.6㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 現地表面から最大約250cmまでを掘削したが、遺構・遺物ともに確認されなかった。



掘削状況

No. 6 包蔵地外(下今井地内)

所在地 下今井字清水端 1344 外 11 筆

調査原因 宅地造成工事(依頼者：国土開発工業株)

調査期間 令和 5 年 8 月 24 日

調査面積 20㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 現地表面から最大約 140cm までを掘削した。近世近代の陶磁器片が数点出土したが、遺構の検出はなし。



掘削状況

No. 7 塚田西遺跡

所在地 島上条字塚田 1699-1

調査原因 宅地造成工事(申請者：紳英興産株)

調査期間 令和 5 年 11 月 28 日～12 月 7 日

調査面積 76㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 現地表面から最大約 133cm までを掘削した。地表下 70cm あたりまで現代のゴミを含む層のため、大半がカクランである。地表下約 52～68cm の黄褐色細砂層で縄文時代の土坑 1 基、時期不明の土坑 1 基を検出。同様の深度までの間に、縄文土器、黒曜石片、古墳時代の土師器、須恵器、近代の陶磁器がプラスチックコンテナ箱 1 箱分出土した。



掘削状況



調査風景

No. 8 霞堤

所在地 富竹新田字東耕地 510-1 の一部外 2 筆

調査原因 宅地造成工事(申請者：祐明和ホーム)

調査期間 令和 6 年 2 月 5 日

調査面積 36.5㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 現地表面下最大約 150cm までを掘削したが、遺構・遺物は確認されなかった。



掘削状況

No. 9 ひなた 平野にし 日向遺跡・塚西遺跡

所在地 大塚737-1外27筆

調査原因 宅地造成工事(申請者：未来予想図株)

調査期間 令和6年2月6日～3月5日

調査面積 460㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 現地表面下最大約100cmまでを掘削した。時期不明の竪穴状遺構1基、時期不明の土坑2基を検出し、近世・近代の土器片数点、五輪塔の火輪が出土した。



火輪出土状況

No. 10 りゅうじ 包蔵地外(龍地地内)

所在地 龍地6460-1外6筆

調査原因 拠点施設整備に伴う事前調査(依頼者：甲斐市長)

調査期間 令和6年3月14日

調査面積 42㎡

調査担当 塩谷風季

調査結果 現地表面下最大約120cmまでを掘削したが、遺構・遺物は確認されなかった。



掘削状況

3. 令和5年度 本調査概要

峠の腰窯跡第1次発掘調査(整理分析調査)

所在地 甲斐市宇津谷地内

調査原因 農道改良工事(調査依頼者：山梨県中北農務事務所長)

調査期間 令和5年5月24日～令和6年3月31日

調査面積 120㎡

調査担当 長谷川哲也

調査結果 窯跡の時期は先行研究により江戸時代後期(19世紀後半)とされる。令和4年度に行った発掘調査の結果、農道改良工事部分に窯本体は存在せず、灰原であることが判明した。西から東に傾斜する流れ山の地形とは別に、北から南にかけて落ち込む浅い谷が存在し、灰原は浅い谷を利用して形成されていたことが明らかとなった。令和5年度に整理分析調査を実施し、甲斐市文化財調査報告書第37集『峠の腰窯跡1』として刊行した。



整理分析調査風景

基本方針① 調べて得ず(調査研究・保存・維持管理・伝承)

[illegible]

基本方針2 伝えて共有し、育てる（情報発信・活用・人材育成）

[illegible]

基本方針3 未来につなげる（体制整備、防災・防犯への備え、拠点施設の整備）

[illegible]

年 報 抄 録

ふりがな	かいしれきしぶんかしさんねんぽう
書名	甲斐市歴史文化資産年報 7
副書名	令和5年度
巻次	
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告書
シリーズ番号	39
編著者名	長谷川 哲也
編集機関	甲斐市教育委員会
所在地	〒400-0192 山梨県甲斐市篠原 2610
発行年月日	令和7年〔西暦2025年〕3月31日



令和5年度 文化財保存活用地域計画連絡協議会（文化庁）にて

甲斐市文化財調査報告書 第39集

甲斐市歴史文化資産年報7

令和5年度

発行日 令和7年(2025)3月31日
 発行 甲斐市教育委員会
 山梨県甲斐市篠原 2610
 TEL (055)278-1697
 印刷 青柳印刷株式会社
 山梨県甲斐市長塚 526

